

# 1年次レポート 及び 2年次の活動目標

28年度

29年度

30年度

31年度



「ほっとかない」を合言葉に  
出来ることから実践

第3次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン  
平成28年度～31年度

大雪に見舞われた波賀町北部の高齢者を支援しようと、市民と本会職員の有志で雪かきボランティアを実施 (2/18 写真は戸倉地区のひとり暮らし高齢者宅)

第3次地域福祉推進計画を進める会  
社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

# もくじ

1 第3次地域福祉推進計画 28年度（1年次）の取り組み・・・1

2 第3次地域福祉推進計画の概要と進捗状況・・・・・・・・・・2～14

第3次地域福祉推進計画総合体系図・・・・・・・・・・2～3

**推進目標1 いざという時困らない地域をつくる**

活動項目1 地域の見守り活動を進める・・・・・・・・・・4  
活動項目2 だれもが気軽に集える居場所をつくる・・・・・・・・5  
活動項目3 平時から災害への備えを進める・・・・・・・・・・6

**推進目標2 みんなで支えるつながりをつくる**

活動項目4 地域が元気になる支え合い活動を進める・・・・・・・・7  
活動項目5 地域福祉を進めるための地域をたがやす・・・・・・・・8  
活動項目6 行政や関係団体等とのネットワークを強化する・・・・9

**推進目標3 自分らしく生活できる仕組みをつくる**

活動項目7 SOSを見逃さない総合相談支援体制を強化する・・10  
活動項目8 情報共有体制の充実をはかる・・・・・・・・・・11  
活動項目9 総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる・・・・・・・・11

**推進目標4 社協を強くするための組織基盤をつくる**

活動項目10 支部拠点活動の充実をはかる・・・・・・・・・・12  
活動項目11 地域福祉活動財源を確保する・・・・・・・・・・13  
活動項目12 社協の組織と経営を強化する・・・・・・・・・・14

3 29年度（2年次）の活動目標・・・・・・・・・・15～20



# 1 第3次地域福祉推進計画 28年度（1年次）の取り組み

## 1) 4か年計画がスタート ～理事会・評議員会で承認～



第30回社協評議員会 ～H28.6.30～

平成27年6月から「第3次地域福祉推進計画策定委員会」を毎月開催し、第3次計画の策定に向けた話し合いを進めました（延べ11回開催）。

また、地域福祉担当者や介護職員で作業部会を組織し、策定委員会の議論に必要なデータ収集や課題の分析を行いました。1年に及ぶ議論を重ね、28年6月に理事会・評議員会での承認を経て計画を策定し、4か年計画がスタートしました。

## 2) 「ほっとかない」を合言葉に出来ることから実践



「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり～ “ほっとけない” をほっとかない宍粟に～」を28年度から31年度の4年間で、宍粟市社協が取り組む地域福祉目標として決めました。地域、団体、行政、社協等が連携と協働を図りながら“支え合い”を進める本計画にふさわしい愛称として、「支え合いふくしプラン」と名付け、「ほっとかない」を合言葉に出来ることから実践しました。（4頁以降に進捗状況を報告）

## 3) 「支え合いふくしプラン」を地域住民に周知

支え合いふくしプランを住民へ周知するために、毎月発行の広報紙「こんにちは！社協です！！」やホームページなどで報告を行い、9月には、計画を分かりやすくまとめた概要版（ダイジェスト版）を全世帯に配布しました。

10月には、千種町鷹巣の新たな集落活性化の拠点である「たかのす東小学校（旧千種東小学校）」を会場に『第6回宍粟市地域福祉のつどい』を開催し、「 “ほっとけない” をほっとかない宍粟」をテーマに、支え合いふくしプランの説明や住民主体の地域づくりについて参加者と共に考える機会になりました。



つどいに230名が参加 ～H28.10.1～

## 4) 計画の推進と進行管理 ～進める会で進捗を報告～



進める会ではそれぞれの立場で意見を交換  
～H29.4.26～

支え合いふくしプランを着実に推進するための協議の場として、第2次計画から引き継ぐ形で「第3次地域福祉推進計画を進める会」を設置しました。

進める会には、第3次計画の策定委員や各支部の地域福祉推進委員、社協理事が参加し、28年度の進捗状況の点検・評価を行いました。積み残した課題等は新たに組織した職員部会で分析を行い、半期ごと（9月・3月）に進める会で協議していきます。

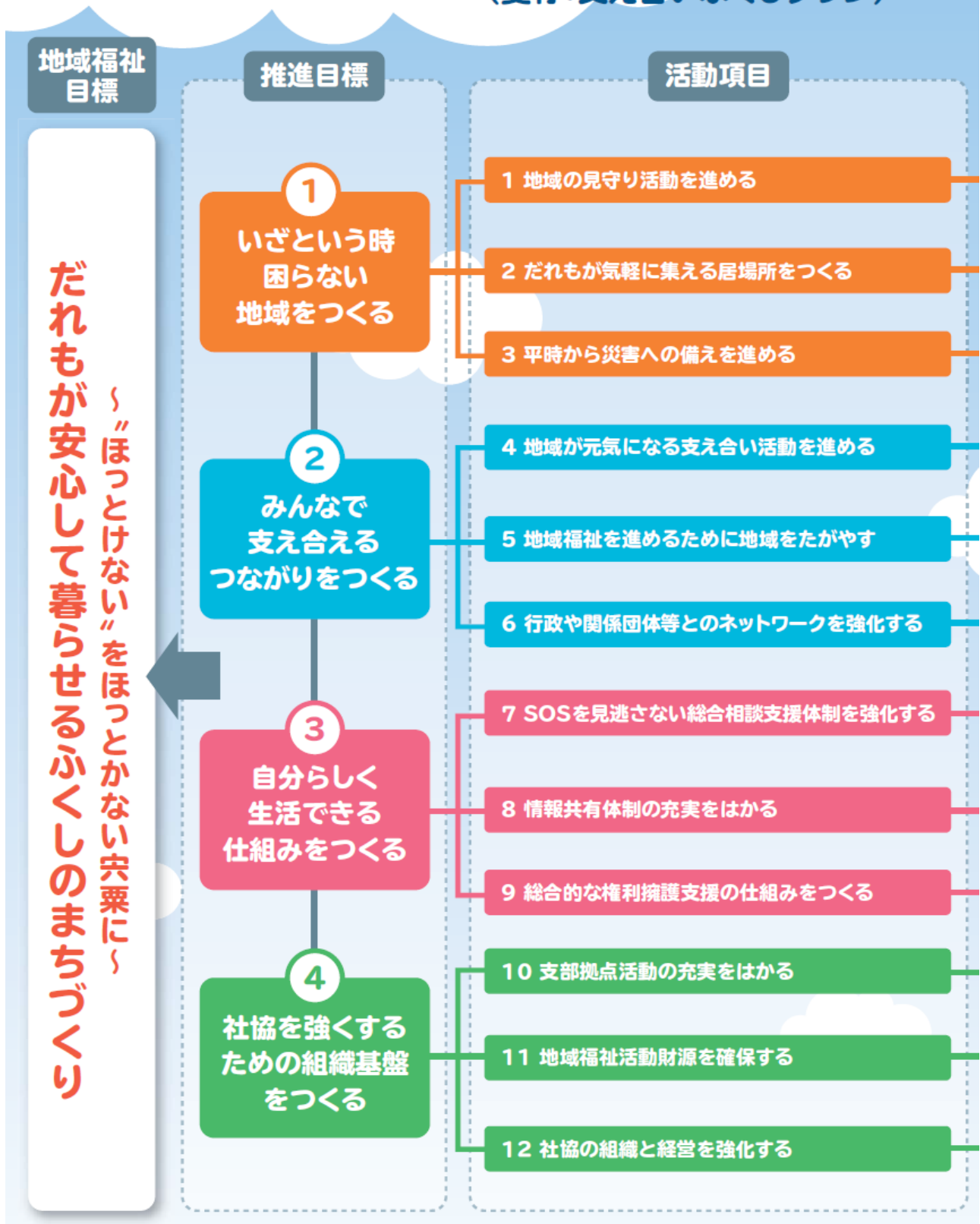


## 2 第3次地域福祉推進計画の概要と進捗状況

宍粟市社会福祉協議会

# 第3次地域福祉推進計画

(愛称:支え合いふくしプラン)



地域福祉目標を実現するために、4つの推進目標を設定し、地域福祉の推進と社協の基盤強化に取り組んでいます。そして、宍粟市社協の主要事業活動にあたるものとして、12の具体的な活動項目を提示し、活動項目に取り組むためのキーワードとして、全体で61の個別活動項目を設定しています。

# 総合体系図

第3次地域福祉推進計画の進行管理については、「第3次地域福祉推進計画を進める会」で進めていきます。



## 個別活動項目

- |   |   |
|---|---|
| ①福祉委員活動の強化<br>②自治会福祉連絡会活動の強化(地域見守り会議の設置)<br>③ご近所ボランティア活動の推進<br>④防災・福祉マップづくりの推進          | ⑤民生委員・児童委員との連携<br>⑥行政・民間事業者等が進める見守り活動との連携<br>⑦制度の狭間にある課題への対応      |
| ①当事者組織等の支援と連携<br>②集いの場や居場所づくりの推進  | ③空き家・空き校舎の地域づくりへの利活用の推進<br>④ひきこもり者等が社会参加できる場づくり                   |
| ①地域内での要援護者台帳整備の推進<br>②災害救援ボランティア活動支援マニュアルの見直し<br>③災害ボランティア体制の整備(養成等)                    | ④市社協事業継続計画(BCP)の改訂<br>⑤地域活動継続計画(DCP)の策定提案                         |
| ①市社協としての新しい地域支援事業の取り組み強化<br>②住民主体の協議体づくりへの支援<br>③生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の配置             | ④生活支援サービスの開発と充実<br>⑤市内山間部の集落福祉(集落再生と地域福祉の融合)の推進                   |
| ①子どもたちが福祉を学ぶ環境の整備<br>②住民参加の学習会や勉強会の企画実施<br>③地域リーダーの発掘と養成                                | ④退職世代等ボランティア活動者の拡大<br>⑤老人クラブ等高齢者の福祉活動への参加促進                       |
| ①行政(地域包括支援センター等)との連携強化<br>②市内の社会福祉法人連絡会の組織化   | ③穴粟市福祉支援ネットワーク連絡会の活動強化<br>④保健・医療・福祉・介護に関する機関とのネットワークの強化           |
| ①市社協が担う中間支援組織としての役割の充実<br>②総合相談受付システムの有効活用<br>③介護・福祉相談の充実(職員すべてが相談窓口)<br>④暮らしの何でも相談所の開設 | ⑤生活困窮世帯への相談支援の充実<br>⑥結婚促進に向けた相談事業の展開<br>⑦専門的な相談機関との連携             |
| ①市社協内部での情報の一元化<br>②情報のシステム化(電子個人カルテ)  | ③行政との情報管理と提供のルール化<br>④障がい者等だれにも配慮した情報の発信                          |
| ①日常生活自立支援事業の推進<br>②法人後見が担える社協づくり<br>③顧問弁護士の選定・契約  | ④障がい者の権利擁護を進める取り組みの強化<br>⑤西播磨成年後見支援センターとの連携                       |
| ①支部推進活動計画の策定・推進<br>②支部地域福祉推進委員会の活性化   | ③各支部のボランティアセンター機能の充実  |
| ①財源の使い道の明確化(見える化)<br>②善意銀行預託の積極的推進(寄付文化の醸成)<br>③地域福祉活動と連動した新たな募手法の開拓                    | ④社協会費のあり方の検討<br>⑤新たな自主財源の確保<br>⑥地域福祉活動推進のための市補助・受託事業の展開           |
| ①職員の資質向上に向けた研修の実施<br>②職員育成を主眼にした人事考課の継続実施<br>③理事と職員の連携の強化と役員業務研究会の継続実施                  | ④地域福祉・介護等職種間の連携とスキルアップ<br>⑤社協のガバナンスと組織体制の見直し<br>⑥介護保険事業の経営改善計画づくり |

28年度(1年次)の取り組みについて、活動項目ごとに進捗状況を報告しています(4頁～)。「第3次地域福祉推進計画を進める会」で1年次の点検・評価を行い、見えてきた課題に取り組むため、29年度(2年次)の活動目標を設定しました(15頁～)。

## 推進目標 1 いざという時困らない地域をつくる

### 【活動項目 1】 地域の見守り活動を進める

#### ●見守り活動を進めるための担い手をつくる

熊本地震  
救済活動に派遣  
の職員から活動報告  
福祉委員研修会へ



共同募金配分金を活用  
～小地域福祉活動のてびき～

福祉委員832人が活動しました。7月には、福祉委員の役割をテーマに4支部で研修会を開催し265人が参加しました。福祉委員や福祉連絡会の役割をまとめた「小地域福祉活動のてびき」（リーフレット）が3月に完成し、29年度はリーフレットを活用しながら研修や学習の機会をつくっていきます。

#### ●福祉連絡会で地域の福祉課題を共有



見守りや支え合い活動を進めていくために  
～福祉連絡会～



各自治会に設置の福祉連絡会に助成金（155自治会・414万円）を交付し活動の基盤を支えました。29年度は、福祉連絡会の話し合いの場として「地域見守り会議」を定着させ、自治会の中で見守りや支援が必要な方の情報共有や、地域課題の早期発見・早期対応の機能が果たせる組織づくりを進めています。

#### ●民生委員が地域の見守り役として



民児協定例会の後に配達  
～千種配食サービス～

各町の民児協定例会での情報共有や配食サービス、ふれあい郵便等を通じた民生委員・児童委員との連携を図りました。歳末たすけあい事業では、75歳以上のひとり暮らし世帯のみなさんに特別給食・灯油配達・カレンダー配布サービスの呼びかけをいただきました。



心のこもったお便りを手渡して  
～波賀ふれあい郵便～



毎年、民生委員さんの  
協力を得ながら実施

歳末たすけあい募金にご協力ください

### 歳末たすけあい運動

この事業を行うため、366万円を目標に募金を集めます。みなさまのあたごに協力をお願いします。お寄せいただいた募金は、随時にご寄付に活用します。

**赤い羽根あったか灯油配達サービス** ①  
75歳以上のひとり暮らし世帯の方へ、灯油（180リットル）を無料でお届けします。（昨年度実績 2,387件）

**歳末特別給食サービス** ②  
75歳以上のひとり暮らし世帯の方へ、12月30日にお届けをお届けします。（昨年度実績 476件）

**カレンダー配布サービス** ③  
75歳以上のひとり暮らし世帯の方へ、大きくて使いやすいカレンダーを民生委員児童委員さんを通じてお配りします。（昨年度実績 77,721件）

**サンタクロース派遣**  
クリスマスの楽しさを伝えるための存続費、幼稚園や保育園にサンタクロースを派遣します。（昨年度実績 8,679件）

※1 別添で確認されるのは「特別給食」と「灯油配達」とどちらかのサービスが優先できます。



## 【活動項目2】だれもが気軽に集える居場所をつくる

### ●共通の課題を抱える当事者同士のつながりづくり

宍粟市男性介護者の会や NPO 法人ひまわりの家（ひきこもり者の支援活動）、各支部で毎月開催の在宅介護者の会等の側面的支援を行いました。また、老人クラブ連合会や身体障害者福祉協会、婦人共励会等については、専任のアドバイザーや各支部の事務局職員が運営を支援しました。



明日からの男性の介護に活かせる  
取り組みを ～男性介護者の会～



情報交換やりフレッシュのために  
～在宅介護者の会～



会員同士の交流と支え合い  
～身体障害者福祉協会～

### ●地域の誰もが参加できるつどいの場づくり

生活支援コーディネーターが、地域の誰もが何らかの役割をもって参加できる「集いの場や居場所づくり」を提案し、ふれあい喫茶やサロン等で活動を広げてきました。また、新たな集いの場等の立ち上げ経費の一部として共同募金配分金を活用しました（2団体助成）



ふれあいサロンで居場所づくり  
（29団体・123回）

ふれあい喫茶で世代間交流  
（125団体・545回）



この共同募金は、国・自治体・民間団体の協力を活用して行います。

**地域の居場所づくりを  
社協が応援します！**

集いの場・居場所づくり応援助成

宍粟市では、第3次計画策定推進計画（※※）「ふれあい喫茶・サロン」の活動目的のひとつである「地域の活性化や生活支援活動の推進を図るため、地域上での新たな居場所を創出する」を目的として、共同募金配分金を活用して「集いの場・居場所づくり」を新たに創出する団体やグループに対し、立ち上げ経費の一部を助成します。

（対象団体）  
自主的に集会的な活動ができる団体・グループ等  
（構成人数は不定）

（対象となる事業）  
・集いの場と名称の付いた調理や喫茶サービス  
・集いの場やサロンの運営  
・経費等を助成したこのPDF等

※詳しくは、宍粟市社協ホームページまたは広報7月号をご覧ください。

※助成額は3万円に達した時点で今年度の募集は終了します。  
※申請書の受付は、宍粟市社協のホームページからダウンロードすることとなります。

助成金額  
上限 5万円  
（助成総額30万円）  
募集中！

集いの場・居場所づくり応援助成  
赤い羽根共同募金配分金を活用



健康づくりの場をつどいの場に  
～いきいき百歳体操～

### ●空き家・空き校舎を地域活性化の拠点として



第3次計画策定委員長の松澤賢治先生を  
コーディネーターにフォーラムを開催

10月1日に、空き校舎をふれあい食堂や宿泊棟として鷹巣活性化委員会で運営している「たかのす東小学校（旧千種東小学校）」を会場に、『第6回宍粟市地域福祉のつどい』を開催しました。フォーラムでは、閉園した幼稚園を改装したレストラン「おふくろ工房波賀・のはら」や「鷹巣活性化委員会」の取り組みを紹介し、住民主体の新たな拠点づくりにつながるフォーラムとなりました。

空き家の利活用については「コミュニティハウス青い家」や「ひまわりの家」など、先駆的な取り組みがあり、宍粟市内にあるさまざまな情報を発信しながら利活用について考える場（研修等）を設けていくことが課題です。



毎月開催のふれあい食堂は大好評  
～たかのす東小学校～



古民家をカフェと雑貨の店に  
「ひまわりの家」



空き園舎を改装しレストランを運営  
～おふくろ工房波賀・のはら～



貸館・イベント・教室…幅広い用途で  
～コミュニティハウス青い家～

### 【活動項目3】 平時から災害への備えを進める

#### ●災害時に連携した救援活動に迅速に取り組むために

4月14日に発生した熊本地震をふまえ、西原村災害ボランティアセンターに職員を派遣し運営支援を行いました。11月6日には、千種中学校で開催された「宍粟市総合防災訓練」に参加。災害ボランティアセンター開設訓練を行い、災害救援活動支援マニュアルに沿って災害ボラセンを設置し、組織や業務内容等を点検しました。

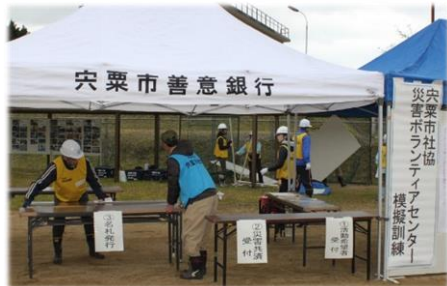


134万円を被災地に  
「熊本地震義援金」

それぞれの立場の意見が  
「災害ボランティア  
養成講座」



「初動体制や流れ等を点検」  
「宍粟市総合防災訓練」



受講者のネットワーク化に向けて  
～災害ボランティア交流会～

9月から「災害ボランティア養成講座（3回）」を開催し15人が受講しました。熊本地震の報告や被災地への視察等を行い、受講者に災害救援活動のネットワーク化（連絡会）を図る提案を行い、2月にこれまでの受講者（1期～3期）に声をかけ情報交換の場を設けました。29年度は受講者と連携を図りながら、災害に備えた取り組みを進めていきます。



## 推進目標2 みんなで支え合えるつながりをつくる

### 【活動項目4】地域が元気になる支え合い活動を進める

#### ●生活支援コーディネーターを新たに配置

介護保険制度の改正により、平成29年4月に「介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）」へ移行するにあたり、穴粟市からの委託を受け、生活支援体制整備事業を進めていくための新たな職種として「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」を保健福祉圏域＝旧町域（第2層）に2名配置しました。



山崎・千種域と一宮・波賀域に配置  
～生活支援体制整備事業～



ふれあい喫茶に出向いてボランティア  
のみなさんと意見交換

住民向け学習会（福祉連絡会・  
老人クラブ・ボランティア等）



ひとり暮らし世帯への  
困りごとの調査



生活支援コーディネーターは、地域の実情や特性を知ることから始め、福祉連絡会をはじめ、老人クラブや女性会、ボランティア等の集まりへ出向き、介護保険の制度改正や地域包括ケアシステムの説明等、学習会や座談会など重点的に行いました。29年度は、住民や専門職等との連携強化の場＝協議体づくりへの支援をはじめ、生活支援サービスの開発に向けた担い手づくり等、専門職としての役割を果たしていきます。

#### ●高齢者の介護予防と生活機能の低下を防ぐために



通所型サービスA2の実施に向けて  
～介護予防事業（一次・二次予防）終了～

穴粟市からの受託事業として取り組んできました介護予防普及啓発事業（一次予防）と通所型介護予防事業（二次予防）が終了しました。平成29年4月から「新しい総合事業」が実施されることにより、穴粟市が高齢者の閉じこもりや認知症などを予防することを目的に新たに実施する「通所型サービスA2（ミニデイサービス事業）」を受託します。

## 【活動項目 5】 地域福祉を進めるために地域をたがやす

### ●福祉への理解や関心を高める取り組みを

子どもから大人まで、すべての人が地域の中で自らの果たす役割について、自覚と意欲を持つことができるように、学校での体験学習をはじめ、自治会での住民学習会など、福祉への理解や関心を高める取り組みを進めました。



学校での学びや体験を地域で活かすことが大切



学校での福祉学習は、学習プログラムをはじめ、点訳や手話などのボランティアや当事者（ゲスト）の調整等を行い、宍粟市内の13校で30教室が行われました。夏休みには、小学3年生以上を対象に、市内公共交通を利用し4支部を会場にボランティアスクールを開催しました。

福祉連絡会等が中心となり学習会を企画し、コミュニティワーカーや生活支援コーディネーター等が相談や助言を行いました。29年度は、地域・学校・企業が取り組める「福祉学習プログラム」を作成し、住民誰もが福祉や障がい、防災等についていっしょに考える機会をつくっていきます。



14自治会の学習会等に職員が伺いました  
～学習会・座談会・研修会～

### ●福祉活動のリーダーとして役割を担う人材を

小地域福祉活動説明会（助成金や活動のメニュー提案等）をはじめ、福祉連絡会代表者会や代表福祉委員連絡会議等、各自治会の福祉活動リーダーが集まる機会をつくりました。今後は計画的な研修・学習の場づくりが課題です。



自治会長と代表福祉委員が出席  
～小地域福祉学習説明会～



コミュニケーション麻雀を体験  
～代表福祉委員連絡会議～



28年度の活動を振り返り  
～福祉連絡会代表者会～



●退職世代や高齢者…地域づくりの大きな力として



第二の人生をお手伝い  
～セカンドライフ応援セミナー～

退職世代が、これまで仕事で培ってきた知識や経験をセカンドライフに活かせるよう、ボランティアや地域参加できるきっかけづくりとして「第5期セカンドライフ応援セミナー」を開催。福祉施設の見学やピザ作り体験等14人が受講しました。今回の受講者が全て女性であったことから男性が参加しやすい講座の企画が課題です。

「新しい総合事業研修会」を4支部の老人クラブ連合会で開催しました。生活支援コーディネーターを講師に介護保険制度の改正や地域包括ケアシステムの説明等を行い、参加者同士で意見交換し、集いの場や見守り活動の担い手として大切な役割を果たしていくことを共有しました。



老人クラブは地域活動の現役世代  
～新しい総合事業研修会～



何かの形で参加協力を  
～ふれあいサロン～

【活動項目6】行政や関係団体等とのネットワークを強化する

●社会福祉法人・障がい者作業所・NPO団体等との連携



兵庫県内では社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の立ち上げが進んでいます  
～兵庫県社協「ひょうごの福祉」から～

市内の障がい者作業所やNPO団体、行政等関係団体で結成している「宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会」について、団体同士の相互交流を深められるよう、情報交換の場や研修会の開催等、事務局として活動強化を図りました。3月18日には、「福祉の職場で働く人の職業倫理」をテーマに研修会を開催しました。

社会福祉法の改正により、社会福祉法人が地域においてネットワークを形成し、地域の様々な福祉ニーズに対応できる体制を構築していくために、高齢・障がい・児童の3分野の社会福祉法人が集まり、「宍粟市社会福祉法人連絡協議会（仮称）」を立ち上げるための準備を進めました。



研修会を開催し37人が意見交換  
～福祉支援ネットワーク連絡会～

## 推進目標3 自分らしく生活できる仕組みをつくる

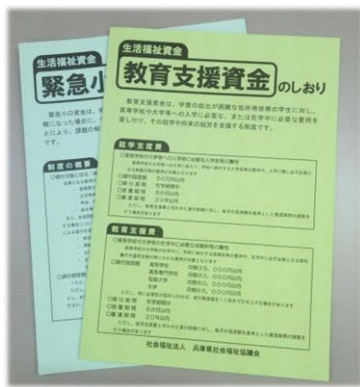
### 【活動項目7】SOSを見逃さない総合相談支援体制を強化する

#### ●日常生活の中での困りごとや悩みごとを解決

専門的な相談の受け皿として、宍粟市社協が契約の弁護士による「無料法律相談」を実施し、日常生活の中での困りごとや悩みの解決を図りました。28年度もたくさんの相談を受け、相談者からのニーズの高さが伺えました。引き続き幅広く啓発しながら実施していきます。

9回開催し58件を受付  
～無料法律相談～

弁護士に原稿依頼（年6回）  
～権利擁護の相談コーナー～



兵庫県社協からの委託事業  
～生活福祉資金～

生活福祉資金やまごころ福祉資金の貸付事業や、日常生活自立支援事業（旧福祉サービス利用援助事業）等の相談強化を図りました。生活福祉資金の相談が162件あり、行政の相談支援員や就労支援員と連携を図りながら、貸付に至らないケースについても丁寧な対応を行いました。また、貸付や償還については担当民生委員と連携し、生活指導や助言を行いました。



#### ●結婚促進に向けた相談事業と出会いの場づくり



毎月2回開設し39件を相談受付  
～宍粟市結婚相談所～



イベントを2回開催し11組成立  
～出会いサポートセンター～



鷹巣の婚活イベントで3組成立  
～たかのす東小学校～

24名の結婚相談員による「結婚相談事業」と、婚活セミナーや出会いの場（交流イベント等）を提供する「宍粟市出会いサポートセンター事業」との連携した取り組みを進めました。相談から成婚に至るまでの未婚者へのサポートを行い、5組（山崎3、一宮1、千種1）の成婚がありました。また、鷹巣活性化委員会が企画する婚活イベントへの協力なども行い、今後も行政や団体等との情報共有を図りながら活動を展開していきます。



## 【活動項目 8】 情報共有体制の充実をはかる

### ●住民に見えやすいわかりやすい情報を発信

毎月発行の広報紙「こんにちは！社協です！！」では、ひ孫といっしょ、いきいきライフ、トピックス、ボランティアコーナー等、常に住民が主役の紙面づくりを行い、広報では紹介できない日々の取り組みなどはホームページで紹介しました。また、市社協の取り組みを紹介したパンフレットを作成しました。



タイムリーな情報発信を  
～ホームページ～

朗読グループ「ふきのとう」や「デイジー穴栗」の協力のもと、朗読テープやCDを作成し、目の不自由な方々へ広報紙の情報をお届けしました。また、点訳グループが目の不自由な方々のニーズに合わせた点訳資料や点訳本を作成するなど、分かりやすい情報を発信しました。



福祉活動や情報を紹介  
～社協広報紙～



共同募金配分金を活用  
～社協パンフレット～



目の不自由な方へ毎月配布  
～朗読テープ・CD～

## 【活動項目 9】 総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる

### ●判断能力に不安のある方の金銭管理のお手伝い

比較的軽度な認知症や精神障がい、知的障がいの方を対象に、新規2件を含めた26件と契約しており、生活支援員の献身的な取り組みにより事業が進んでいます（派遣回数592回）。限られた職員で事業を展開していることから新たな相談や利用促進への対応が難しい状況で、どのように事業を推進していくのか課題です。



金融機関でのお金の出し入れ  
～日常生活自立支援事業～

### ●障がいのある方の自立した生活のお手伝い

自己決定の尊重を大切に  
～相談支援センター～



相談支援センター「ゆめぷらん」の相談支援専門員が、日常生活に関する様々な相談に対応し、自己決定を尊重したサービス等利用計画を作成しました。今後も、障がいのある方が自分らしく自立した生活が営めるよう支援していきます。



相談対応495人、相談数591件  
サービス計画表113件  
モニタリング294件

## 推進目標4 社協を強くするための組織基盤をつくる

### 【活動項目10】支部拠点活動の充実をはかる

#### ●4つの支部の福祉活動や運営の活性化をめざす

各支部の福祉活動や運営活性化をめざし、支部地域福祉推進委員会を開催しました（4支部13回）。波賀支部では北部域の課題について話し合う機会となり、また、千種支部では推進委員と職員でひとり暮らし高齢者等を招待した集いの場（ころあつたかカフェ 年2回）を開催するなど、支部運営の活性化を図りました。



推進委員がそれぞれの立場で意見交換  
～支部地域福祉推進委員会～



推進委員と職員で集いの場づくり  
～ころあつたかカフェ～



各支部で年2回発行  
～支部かわら版～



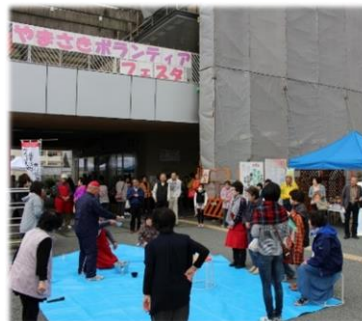
支部かわら版（支部だより）の発行に向けて、かわら版編集委員会を開催し（4支部11回）、紙面について協議する中で、推進委員それぞれの立場で各支部の課題やニーズの共有につながりました。今後も、各支部で課題等を共有し協議できる場として運営していくことが課題です。

#### ●ボランティアセンターと各町ボランティア連絡会との協働

各支部のボランティア関係の事業や取り組みについては、ボランティアセンターとボランティア連絡会と連携を図りながら展開し、社協広報紙でボランティア連絡会の活動紹介やPRを行い市民へ発信しました。市社協の事業がボランティア連絡会の協力で実施できている現状があり、今後も連絡会と連携しながらセンター運営の充実を図っていきます。



震災を風化させないために  
～「1.17」「3.11」追悼行事～



ボランティア同士の親睦を  
～ボランティアイベント～



善意推進月間に清掃作業  
～ボランティアの日～



## 【活動項目 1 1】 地域福祉活動財源を確保する

### ●貴重な財源を有効に活用するために

社協広報紙の特集記事で善意銀行預託金や社協会費、赤い羽根共同募金等の啓発に努め社協のさまざまな事業を案内する際には財源を紹介するなど努めました。また、企業や団体向けに広告募集も行いましたが成果が出ておらず今後の課題です。



福祉連絡会の活動運営費や居場所づくりの立ち上げ経費など～赤い羽根共同募金～

大規模災害時発生時の支援金や社協広報紙の発行費として善意銀行と社協会費



歳末特別給食や灯油配達サービスなど～歳末たすけあい募金～

### ●新たなプロジェクトで市内の事業所と連携

企業やNPOなどの新たなパートナーと協働した新しい募金手法として、募金百貨店プロジェクトに初めて取り組み、宍粟市の関連する6事業者にご協力いただきました。29年度も新たな協力事業者を依頼していき、事業や活動をもっと市民にPRし、地域福祉活動の理解者、協力者、応援団を増やしていきます。



赤い羽根共同募金



売上げの一部を募金に (19,925円)～募金百貨店プロジェクト～

### ●地域福祉活動推進のために補助事業や委託事業を展開



見守りや生活支援としての役割を (359回・210名・14296食)～配食サービス事業～

第3次地域福祉推進計画で市社協が果たす役割を明確にし、事務局人件費をはじめ、出会いサポートセンター、配食サービス、障がい者相談支援センター、生活支援体制整備事業等、宍粟市の補助事業や委託事業を展開しました。29年度も地域福祉活動を安定して展開するために、補助事業や委託事業を取り組んでいきます。

## 【活動項目 1 2】社協の組織と経営を強化する

### ●社協職員として専門職向上のために

組織全体のスキルアップを図るために全体研修の計画を立て、人事考課研修会（目標考課の設定）、支え合いふくしプラン研修会など、職場内の教育や研修を進め、社協の理念や使命等共有を図りました。



それぞれの専門性を  
発揮するために  
～介護福祉課研修～



目標考課の意義について共有  
～人事考課研修会～



県社協地域福祉部から講師を招いて  
～コミュニティワーク研修会～

各部署における専門職向上のために、介護福祉課の合同研修をはじめ、ケアマネジャー、ホームヘルパーなど事業所ごとに研修に取り組み、コミュニティワーカーも初めて研修に取り組みました。今後は、職場研修体系に基づいた研修計画の立案が課題です。

### ●社会福祉法人制度の見直しによる大幅な改革を



理事からの的確な助言が社協運営を支援  
～社協理事会～

毎月理事会を開催し、各理事それぞれの立場から各事業についての的確な助言をいただきました。支部運営についても、各支部選出の理事と職員が連携を図りながら取り組みを進めました。また、平成28年3月に社会福祉法改正により社会福祉法人制度の見直しが行われ、その中で評議員選任・解任委員会の設置や評議員会の定数変更（40名→25名）など大幅な変更を行い、改正法の施行（29年4月）に向けた準備を整え、組織経営のガバナンスの強化を図りました。

### ●経営改善に向けた事業の見直し

外部委員、社協理事などにより第5期経営検討委員会を立ち上げ、事業の見直しや経営強化に向け、委員会を4回開催し、福祉有償運送事業や敬老会事業、マイクロバスの所有などについて協議しました。12月末には全ての協議が終了し経営改善計画を策定しました。



事業ごとの妥当性を適切に評価  
～経営検討委員会～



経営改善計画



### 3 29年度（2年次）の活動目標



平成28年度（1年次）から見えてきた課題に取り組むため、29年度（2年次）に重点的に進めていく取り組み（個別活動項目）について目標を設定しました。

数値目標が持てる個別活動項目については数値化（人数、頻度、時期、財源等）を行い、数値目標が持てない項目については、プロセスや関係性に重点を置いた目標を設定しました。

#### 【活動項目1】地域の見守り活動を進める

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
福祉委員の設置	832名（山：273名、－：241名、波：179名、千：139名）	隣保に一人の福祉委員設置を目指す（1,227隣保 山：777、－：225、波：113、千：112）
福祉委員活動マニュアルの作成	「小地域福祉活動のてびき」5,000部作成（3月）	てびきを活用し福祉委員の活動を推進する（福祉連絡会での説明等）
福祉委員研修会の開催	7月に福祉委員の役割をテーマに支部で開催。265名（山：74名、－：97名、波：44名、千：50名）	福祉委員を対象に「認知症」をテーマに各支部で開催（山：7/12、－：7/19、波：7/14、千：7/13）
福祉連絡会の設置	155自治会設置 活動費4,148,300円を助成	全156自治会での設置を目指す。活動助成金は共同募金配分金を活用
地域見守り会議（話し合いの場）の開催	福祉連絡会の話し合いの場として、地域見守り会議を打ち出せなかった	福祉連絡会による地域見守り会議の開催を定着させる。各自治会年4回以上の開催を目指す
福祉連絡会対象の研修会の開催	計画できず未実施	支え合いの地域づくりフォーラム（仮称）を市内1か所で開催（9/2）

#### 【活動項目2】だれもが気軽に集える居場所をつくる

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
在宅介護者の会の開催	4支部 46回 268名 山：10回-45名、－：12回-67名 波：12回-80名、千：12回-76名	在宅で介護される方へ各支部毎月1回つどいの場を提供。年1回市内全体の交流会を開催
男性介護者の会への支援	年12回 活動場所の確保、活動内容の相談、助言等運営を支援	年12回の活動支援、また活動内容の相談や助言等を行う
ひとり暮らし高齢者のつどいへの支援	山：8地区、－：1地区 開催費用の助成、職員派遣	各地区で取り組む一人暮らしのつどいへ助成、また運営支援を行う。歳末たすけあい募金配分金を活用
ふれあい喫茶・サロンの開催	喫茶：4支部 125団体 545回 サロン：4支部 29団体 123回	未実施自治会へ700円、全156自治会での開催を目指す

ひきこもり者への支援	ひまわりの家が実施したひきこもり者の交流会へ協力、ゆめぶらん相談 25ケース	ゆめぶらんの相談支援の強化、またひきこもり家族会や行政と連携した支援を行う
居場所づくり応援事業の実施	2団体 各50,000円助成 赤い羽根共同募金配分金を活用	地域住民のつどいの場の立ち上げ支援として1団体上限50,000円の助成を行う。共同募金配分金を活用（助成総額は30万）

### 【活動項目3】 平時から災害への備えを進める

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
災害時対応訓練の実施	1回 宍粟市総合防災訓練（千種町）に参加し、災害ボランティアセンターを開設	宍粟市と連携し、宍粟市総合防災訓練に参加。災害ボランティアネットワークと連携し訓練を実施（11月予定）
災害救援ボランティアの養成	第3期の養成講座（3回コース）15名受講	第4期の災害ボランティア養成講座を実施（9・10月）
災害救援活動のネットワーク化	2月にネットワーク化に向け1期から3期の受講生7名で交流会を実施	宍粟市災害ボランティアネットワークの結成（6月）
災害救援活動マニュアルの見直し	マニュアルに沿って災害ボランティアを設置し点検を行ったが見直しを行わなかった	マニュアルを用いて訓練を行い、マニュアルの点検と修正を行う（12月）

### 【活動項目4】 地域が元気になる支え合い活動を進める

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
生活支援コーディネーターの配置	第2層域（保健福祉圏域）に2名配置（山崎・千種と一宮・波賀エリア）	市委託を受け2名配置。配置支部や担当エリアにとらわれず、柔軟に対応する。各支部の職員との連携強化
住民主体の協議体づくりへの支援	生活圏域に近いエリア第3層域での協議体機能を持つ福祉連絡会等13地区で啓発	第3層域（自治会域）で30地区、第2層域で4地区以上を目指す。第3層域を中心に既存の組織などと連携した協議の場づくりを進める
生活支援サービスの担い手養成	養成講座等を計画しなかった	ご近所ボランティアの養成を、サポーターと合わせて開催。西播磨で合同実施されるレベル3級相当の養成に市内活動者の参加を促す
生活支援サービスの開発（新しい資源開発）と充実	認知症ケア、配食、生活支援サービスの立ち上げ支援を行い、3件で取り組みがスタート	住民主体の支え合い活動の発掘や新たな課題・ニーズに対応する取り組みを生み出す支援を行う（5件）。支え合い活動等の意味合いを住民に発信し（広報紙、研修等）、地域に必要な役割・仕組みに変える
山間部地域の集落再生に必要な資源・仕組みづくり	移動販売店や地域活性化拠点等と協働した取り組みに進展なし	移動販売店と見守り情報共有の仕組みを作る。地域活性化拠点等と協議の場を持つ。見守り「まま」シートを活用する。ニーズ調査など地域アセスメントを行いながら進める



## 【活動項目5】地域福祉を進めるために地域をたがやす

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
福祉出前講座パンフレットの作成	作成しなかった	学校・地域・事業所向け、福祉学習パンフレット（ふくしの出前講座）を作成する（6月）
福祉学習プログラムの作成	作成しなかった	当事者（ゲスト）、ボランティア、学校、社協等で話し合いの場を持ち、出前講座パンフレットと一緒に活用できるように作成する（8月）
学校福祉学習の開催	13校 30教室 869名 （アラスカ、車いす、UD、手話、点字、高齢者疑似体験）	福祉学習プログラムに沿った学習の開催を目指す。各学校で1教室以上を目指す。市内の小学（13校）、中学（7校）、高校（3校）等からの依頼が受け入れられるよう支部を問わず対応できる体制をつくる
住民参加の学習会の開催	14自治会に職員派遣（福祉委員の役割、小地域福祉活動、介護保険制度の改正等）	ふくしの出前講座パンフレットを活用し、各自治会・職場等での学習機会を増やす。20自治会、4事業所
セカンドライフ応援セミナーの開催	第5期セミナー（4回シリーズ）14名受講 コミュニケーション麻雀体験や施設見学等	受講生に継続した情報提供と活動の機会を提供する。新規セミナーの男性受講者を増やす。生活支援サービスの担い手を養成する（8・9月）
老人クラブ等高齢者への研修会の開催	320名 各支部老連で「新しい総合事業研修会」を開催し、集いの場など必要性を共有	支え合いの地域づくりフォーラム（仮称）を市内1か所で開催（9/2）

## 【活動項目6】行政や関係団体等とのネットワークを強化する

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
健康福祉部連携会議の開催	10回（9・10月以外）。新しい総合事業や生活困窮者対策等について協議	毎月1回、昨年度に引き続き、新しい総合事業や生活困窮者対策等について協議を行う
穴粟市社会福祉法人連絡協議会（仮称）の設立	高齢・障がい・児童の3分野の社会福祉法人が集まり、協議会を立ち上げるための準備を行った	穴粟市社会福祉法人連絡協議会（仮称）の設立を目指し、社会福祉法人の地域貢献と連携するなど、地域の様々な福祉ニーズに対応できる体制を構築する（年内）
穴粟市福祉支援ネットワーク連絡会の開催	会議1回 学習会1回-37名（テーマ：福祉の現場で働く人の職業倫理）	会議2回 学習会1回（テーマ：未定）



### 【活動項目7】SOSを見逃さない総合相談支援体制を強化する

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
総合相談受付システムの活用	346件（本・一：325件、山：2件、波：0件、千：19件）	入力する内容の判断基準を決める。専門職として受けた相談をタイムリに入力する。100件増を目指す
福祉資金での相談受付	生活福祉資金－相談件数 162件 まごころ福祉資金－相談件数 5件	相談があった場合は、相談支援員や就労支援員につなぎ柔軟に対応する
生活困窮者への支援	支援内容や方法について議論できていない	善意銀行で緊急対応の食料を受付ける「食のセーフティネット事業（仮称）」を検討する（7月）。こども食堂の開設も検討する（8月）
結婚相談所の開設	相談員 24名 24回 相談件数 39件	開設数は同じ。出会いサロンの一体的な取り組みをし、広報等でPRしながら充実した相談を目指す
婚活イベントの開催	出会いサロン主催 2回 11組成立	市全体に加え支部域でのイベントも含め相談員と協力しながら進める
成婚数と交際件数	5組成婚 2組交際	現状維持
無料法律相談の開催	弁護士 8回 40件 関西大学 1回 18件	弁護士5回、関西大学1回 場合によって開催回数を増やす

### 【活動項目8】情報共有体制の充実をはかる

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
社協広報紙の発行	毎月発行（14,000部） 12回 広報編集会議 毎月2回	現状維持
ホームページでの情報発信	社協ニュースでの発信が少ない。活動紹介等データが古く更新が必要	ブログ等各支部週1回更新
朗読テープ・CDの作成・配布	各支部 12回作成 利用者 15名 利用施設 4 配布数：233件	シータン放送等でPRの強化、利用者の拡大を図る。ボランティア活動を支援する

### 【活動項目9】総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
日常生活自立支援事業の利用促進	利用数26件（新規2件） 相談807件 生活支援員派遣592回	必要な対象者を促進し、適切な支援を行う
日常生活自立支援事業生活支援員の登録	11名（山：4名、一：1名、波：4名、千：2名）職員兼務登録6名	利用者への支援がスムーズに出来る支援員の確保。各支部1～2名の登録
障がい者相談支援センターの相談対応	相談対応 495件 相談数 591件 サービス計画表 113件 刊リツグ 294件	当事者に寄り添った計画書の作成と目標達成に向けての支援。サービス計画120件、刊リツグ 312件



【活動項目10】支部拠点活動の充実をはかる

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
支部地域福祉推進委員会の開催	4支部 13回（山：2回、一：3回、波：5回、千：3回）	推進委員会での協議内容を理事会にあげる流れをつくり年3回以上開催する。各支部の課題の整理、かわら版の発行、支部計画の策定等
支部推進活動計画の策定	各支部策定しなかった	共通認識で策定できるようフォーマットを作成。支部目標（長期目標・合言葉）と重点課題を設定し、年内の策定を目指す。推進期間は3次計画と同じ31年度まで
かわら版（支部だより）の発行	山：9・10号、一・波・千：10・11号 編集会議11回（山：4回、一：3回、波：2回、千：2回）	現状維持。編集委員と連携し、地域特性を生かした内容で年2回発行
ボランティア活動者	1,844名（ボランティア共済加入者） 山：779名、本・一：547名、波：302名、千：216名	高齢化・人口減少していく中で現状維持。講座の参加者でグループ化する（災害救援・お出かけ支援・生活支援・退職世代等）
ボランティアグループへの支援	加入数125グループ（山：45G、本・一：36G、波：23G、千：21G） 活動費166万円助成	助成金の案内、相談窓口として活動を支援する。活動助成金は善意銀行預託金を活用（V連も同様）
ボランティア連絡会との連携	V連絡会 94グループ 1,315名 活動費30万円助成（市：5万、山：10万、一・波・千：各5万）	社協・V連事業や行事を連携して行い、加入グループを増やす。活動費30万円助成。未加入グループへの声かけ

【活動項目11】地域福祉活動財源を確保する

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
社協一般会費	10,792世帯（加入率74.2%） 1世帯1,000円 10,779,700円 善意の預託と同時期依頼	経営改善計画に基づき、会員名簿・集金袋を工夫する 10,912,000円 加入率75%
社協賛助会費	862人 97団体 2,391,000円 団体・事業所への呼びかけを強化	経営改善計画に基づき、役職員で「増強月間（仮称）」を設定しキャンペーン的に展開する。2,600,000円、100口増やす（1人1口作戦）
善意銀行預託金	10,860,607円 10,334件 企業や団体向けの広告募集を行ったが成果なし	経営改善計画に基づき、葬儀会館に働きかけ・リーフレット作成し認知度アップを図る。13,400,000円 職員はできる限り善意銀行へ預託
赤い羽根共同募金	8,419,321円 11,266件 募金百貨店ポイント外として市内6事業所が協力	経営改善計画に基づき、事業所・百貨店ポイント外・募金箱設置場所の開拓。街頭募金の強化。8,500,000円
歳末たすけあい募金	3,727,384円 10,476件	経営改善計画に基づき、事業内容を再検討し予算執行できる事業に見直す。3,700,000円

新たな自主財源の確保 (その他広告収入等)	広報紙への有料広告、ホームページへの バナー広告の募集→成果なし	経営改善計画に基づき、広報の有料 広告、HP のバナー広告の募集を行う。 掲載事業所の開拓・取引ある業者に 依頼
--------------------------	-------------------------------------	---

## 【活動項目12】社協の組織と経営を強化する

個別活動項目	28年度実績	29年度目標
内部研修の実施(事務局主催)	5回(障がい者雇用、目標考課・障害者差別解消法、3次計画、コミュニティワーク、支え合い)	部署ごとの課題に応じた研修に加え、3次計画の進捗状況を共有する。研修体系の構築
理事会の開催	11回(9月以外)	新役員体制の中で、毎月実施を目指す
評議員会の開催	4回(29~32回)定期評議員会に加え、3次計画の承認(6月)、定款の変更(12月)	実質的な協議が行える議決機関としての評議員会を目指す(6月、3月)
役職員業務研究会の実施	4つのテーマにそって班編成はしたが実施に至らなかった	役員任期の更新にともない再度班編成を行い研究を進める(下半期)
職種間連携会議の開催	連携の場が持てずに未実施	実際の事例を基に検討会議を年3回行う。8/6、9/24、12/17に計画
経営検討委員会の開催	第5期委員会設置4回開催 事業の見直し、経営強化 12月に経営改善計画を策定	必要性がある場合に開催する



宍粟市社会福祉協議会  
第3次地域福祉推進計画を進める会委員名簿

任期：平成30年3月31日まで

(行政順、敬称略)

	役職名	氏名	選出区分	所属
1	委員長	藤原 誠	策定委員会	千種
2	副委員長	丸井 豊子	策定委員会	波賀
3	委員	伊藤 次郎	社協理事会	山崎
4	委員	石澤 吉正	支部委員会	山崎
5	委員	助光 和雄	策定委員会	山崎
6	委員	安積 盛久	社協理事会	一宮
7	委員	植木 由喜子	支部委員会	一宮
8	委員	藤原 早苗	策定委員会	一宮
9	委員	山根 勝	社協理事会	波賀
10	委員	谷口 賢二	支部委員会	波賀
11	委員	大谷 義明	社協理事会	千種
12	委員	安東 以左子	支部委員会	千種
13	委員	津村 裕二	社協理事会	行政
14	オブザーバー	森本 都規夫	社協会長	
15	オブザーバー	高橋 操実	兵庫県社協	



第3次地域福祉推進計画を進める会職員名簿

	氏名	役職名	所属
1	可藤 和成	事務局長	本部
2	春名 章宏	事務局次長 兼 支部長	本部・一宮
3	春名 豊滋	生活支援課長 兼 支部長	本部・山崎
4	波多野 好則 *	地域支援課長 兼 支部長	本部・千種
5	前野 瑞恵	総務課長	本部
6	東 由美	介護福祉課長	本部・山崎
7	坂本 幸子 *	生活支援課主任 兼 支部長	本部・波賀
8	山本 めぐみ *	コミュニティワーカー	山崎
9	森井 裕矢 *	生活支援コーディネーター	山崎
10	上川 あゆみ *	コミュニティワーカー	一宮
11	田中 祥仁 *	コミュニティワーカー	波賀
12	横山 洋子 *	コミュニティワーカー	千種



※「\*」は職員部会のメンバー。



宍粟市社協 第3次地域福祉推進計画  
2016年度～2019年度

# 支え合い ふくしプラン

だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり  
～“ほっとけない”をほっとかない宍粟に～

2017（平成29）年6月発行

編集・発行 社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会  
〒671-4137 兵庫県宍粟市一宮町閭賀 300 番地  
電話 0790-72-8787 FAX 0790-72-8788

<http://www.shiso-wel.or.jp>  
E-mail: [shakyo@shiso-wel.or.jp](mailto:shakyo@shiso-wel.or.jp)